天満天神宮〔中殿、菅丞相〕中将殿〔東間、菅三品嫡子〕吉祥女〔西間、右大臣北方〕

菅家の伝記はあまねく世の人の知たる事なれば委記さず。祖は天穂日命の苗裔にして、歴世たゞしく、是善公の御子右大臣名は道真と申奉り、いとけなうして顕悟すぐれ、貞観四年に文章生に補し得業生となり、同じく十二年に対策及第し、十八年に侍従にすゝみ、元慶六年渤海国の使者鴻臚館において、右大臣の詩稿を見て称しけるは、風製白楽天に似たりけるとかや。仁和年中に讃岐国守に任じ、寛平五年に参議となり、六年九月に吉祥院にて五十賀を修しけり、九年に中納言をへて大納言にのぼり、大将をかね、昌泰二年二月右大臣にすゝみ右大将なりき。この時左大臣左大将藤原朝臣時平とともに、上皇の勅をうけ天子を補佐し奉りぬ。はじめ帝十四にして猶も聡明にて位につき給へり、一日朱雀院〔上皇御所〕に行幸のをりふし、上皇帝に語給ひけるは、右大臣年高く才賢し専ら任用せらるべしとなり。右大臣かたく辞したまふ。左大臣大にうらみ奉り、妹の皇后なりけるをかたらひかず〳〵讒せしにより、遂に昌泰四年正月廿日大宰権帥に左遷し給ふ。それより三とせすぎ、延喜三年二月廿五日配所にて薨じ給ひ、安楽寺に葬奉る、御年五十九歳なり。其後菅霊にてさま〳〵の事ありしかば、延長元年に左遷の宣旨をすてゝ元の官にかへし、正二位を贈給へり。天慶三年七月菅霊右京七条の文子といふものに御託宣ありて、北野右近の馬場に棲との給ふ。又近江国比良社の禰宜良種に託し給ひけるは、大内の北野に一夜に千本の松を生ぜん、社をば天満天神と崇べしとなり。こゝに於て朝日寺の僧最珍、右京の文子等と力を合せ、霊祠を作り、天徳三年右大臣師輔なほも神威をうやまひ、巍々たる大廈をあらためい

となみ給ふ。今の北野宮是なり。一条院の御宇正暦四年五月に、勅使を宰府の安楽寺につかはし、太政大臣正一位を贈り給へり。末社に船の宮といふは、彼一夜の松なり。此祠に神秘のつたへありとかや。〔以上伝意〕

二月廿五日は菜種の御供の御神事あり、七月六日は御手水とて参詣人内殿に入、神宝虫干あり、九月四日当社の祭礼なり。